

ともにつくる くらしと未来



いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書

2021年度の取り組み

Contents

第1章 社会貢献活動

第4章 組合員の活動

第2章 復興支援活動

第5章 くらしを支える事業

第3章 食の取り組み

第6章 環境活動

Contents — 目次 —

いわて生協の概要 3

〈社会活動報告〉

第1章 社会貢献活動

だれもが安心して暮らせる地域・社会をめざして 5

第2章 復興支援活動

東日本大震災被災地支援 7

第3章 食の取り組み

地産地消、食の安全への取り組み 9

顔と暮らしみえる「産直」 11

第4章 組合員の活動

くらしや平和を守る運動、くらしの願いにそった活動 13

第5章 くらしを支える事業

店舗事業、宅配事業、エネルギー事業 15

保障事業、葬祭事業、福祉事業 17

多様な人々がともに働き続けられる職場づくり 19

〈環境活動報告〉

第6章 環境活動

環境理念 環境方針 20

CO₂ 排出量削減の取り組み 21

原子力発電に依存しない事業とくらし 22

廃棄物の削減・リサイクルの取り組み 23

組合員活動の取り組み 24

環境に配慮した商品の利用普及 25

環境活動のあゆみ 26

協同組合について

【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

編集方針

この報告書は、いわて生協が基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。いわて生協「2030年ビジョン」で掲げる「ともにつくるくらしと未来」の実現に向けた取り組みを、活動の一部ではありますがお伝えします。

対象期間

2021年度（2021年3月21日～2022年3月20日）の事業・活動を中心に報告していますが、一部2022年度の情報や将来の目標も含まれます。

発行 2022年6月

HPアドレス

<https://www.iwate.coop>

本報告書はホームページに掲載しています。

お問い合わせ先

いわて生活協同組合

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地 3
TEL.019-687-1321 (代)

ごあいさつ

「ともにつくるくらしと未来」をめざして

いわて生協では、昨年「2030年ビジョン」を策定し、私たちがめざすこととして「ともにつくるくらしと未来」を掲げました。

2021年度は、その2030年ビジョン達成に向けた「第10次中期計画」の初年度として、若い世代・子育て層のくらしに役立つ事業・活動を中心に取り組みをすすめてまいりました。組合員数は27万4千人となり県内世帯加入率は51.6%に、出資金は初めて100億円を超えました。

いま世界では、新型コロナウイルス感染の収束がなかなか見通せず、長引くコロナ禍により貧困と格差が一層拡大しています。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、ウクライナでは子どもを含む多くの市民の犠牲が続いています。国際社会の力で一刻も早く平和を取り戻さなければなりません。この軍事侵攻は世界的にさまざまな問題を引き起こしており、くらしに欠かせない食料や資源の価格が急騰し、くらしへの影響が強まっています。食料自給率37%、エネルギー自給率11%と、食料・エネルギーの多くを輸入にたよる日本の脆弱さも改めて浮き彫りになっています。さらにロシアが核兵器の使用を示唆したことで、日本でも「核共有」や、「敵基地攻撃能力」の名称を変えての保有、軍備増強などの議論が起き、私たちの平和の願いに逆行する動きが強まっています。

今年4月、国連は「気候変動に関する政府間パネル」報告書で、「私たちは、未曾有の熱波、恐ろしい暴風雨、広範囲での水不足など『気候関連災害』の最短コースにいる」とし、「CO₂を2025年までに減少に向かわせる必要がある」と指摘しました。これからの3年間で地球の未来を左右します。

東京電力福島第一原発事故から11年。先行きが見えない廃炉作業が続く中、政府は昨年4月、アルプス処理水の海洋放出を決め、2023年春からの開始にむけて準備をすすめています。処理水の放出は風評被害を生み、福島はもとより、宮城・岩手のこの11年間の復興への努力が水の泡となりかねません。

世界規模で平和とくらしが脅かされている今こそ、組合員の協同の力でくらしと地域を守り・役立つ取り組みをさらにすすめるとともに、SDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、あゆみをすすめてまいります。

みなさまからのご支援、ご協力に心から感謝を申し上げますとともに、今後もいっそうのご指導、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長

飯塚 明彦



県内生協の合併・合流でいわて生協が誕生。



2018年、ベルフ北上をオープン。

いわて生協の成り立ち・概要

いわて生協が誕生して32年一。

組合員は27万4千人を超え、県内世帯の過半数に広がっています。

「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの声掛けで急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買いする運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつくられていきました。

1990年3月「いわて生協」が誕生

組合員のくらしや地域にさらに役立つ生協をめざし、県内5つの地域生協と岩手県学校生協宮古地域の合併・合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生。次の3つをめざしてスタートしました。

1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。

数字で見るあゆみ

■組合員数		■出資金		■供給高	
1990年度 (誕生時)	8万8,166人	1990年度 (誕生時)	13.1億円	1990年度 (誕生時)	184.1億円
2000年度	13万7,567人	2000年度	36.4億円	2000年度	372.9億円
2010年度	19万9,279人	2010年度	69.4億円	2010年度	352.8億円
2015年度	23万3,208人	2015年度	82.5億円	2015年度	386.2億円
2020年度	26万9,134人	2020年度	99.3億円	2020年度	446.3億円
2021年度	27万4,772人	2021年度	103億円	2021年度	448.7億円

2030年ビジョン
私たちがめざすこと
とものつくる
くらしと未来

- 1 私たちは、生涯とおして組合員のくらしに役立つ生協をめざし、特に若い世代や子育て層のくらしに役立つ事業をすすめ、加入・利用・活動参加を広げます。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくりをめざし、組合員参画による運営とくらしの願いにそった活動をすすめます。
- 3 私たちは、地球環境・食・平和について学び、行動する人を広げ、持続可能な世界の実現をめざします。

2021年度の事業・決算概要

2021年度は「2030年ビジョン」実現のための「第10次中期計画」の初年度として、若い世代・子育て層に役立つ事業・活動をさらに広げ、セリオホール西青山の新設、店舗事業ではクレジット機能付組合員カード「アイコープ・トリプルカード」の導入などに取り組みました。組合員は5千人増えて27万4千人に、出資金は初めて100億円を超えました。宅配の利用好調と店舗の経営改善により、経常剰余金は12億7千万円と、予算を大きく上回って確保することができました。

事業概要

店舗事業（15店舗）、宅配事業（9宅配センター）、保障事業（1共済センター）、葬祭事業（12館）、福祉事業（2事業所）、エネルギー事業
関連会社 / (株) コープ東北保険センターいわて支店

いわて生協のプロフィール

※すべて2021年度末(2022年3月20日)の数字です。

■組合員数	27万4,772人	■世帯加入率	51.6%
■出資金	103億147万円	■供給高	448億6,956万円
■宅配利用人数	7万8,673人	■常勤者(職員)数	2,187人

◆店舗



- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフ山岸
- ・ベルフ魚菜市场
- ・ベルフ牧野林
- ・ベルフ仙北
- ・コープ花巻あうる
- ・コープ高松
- ・マリンコープドラ
- ・ベルフ北上
- ・ベルフまつその
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープアテルイ
- ・ベルフ青山
- ・ベルフ西町
- ・コープ関コルザ

◆宅配センター



- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・にのへセンター
- ・花北センター
- ・釜石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

◆葬祭会館



- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホールみたち
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール仙北
- ・セリオホール矢巾
- ・セリオホールみやこ
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホール釜石
- ・セリオホール岩泉
- ・セリオホール水沢
- ・セリオホール西青山

いわて生協は「2030年ビジョン」の実現を通してSDGs達成に貢献します

SDGsは、2015年9月に国連で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成をめざす共通の目標です。SDGsは2030年までに貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼び掛けており、生協がめざす方向性と重なり合っています。いわて生協は、「2030年ビジョン」の実現を通してSDGsの達成に貢献します。





フードドライブで寄せられた食品を子ども食堂運営団体へ贈呈。ユニセフ ウクライナ緊急募金は短期間で1千万円を超える募金が寄せられています。



第1章

社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。



コロナ禍のくらしを支援する取り組み

生活困窮者支援「フードドライブ」 「子ども食堂支援」「ささえあい募金」

2020年度いわて生協30周年を機に開始した、生活困窮者への支援の取り組みを継続しました。

商品を購入し寄付いただく「フードドライブ」を、店舗で2回、宅配で1回実施。組合員から6,736点(前年+3,686点)の商品が寄せられ、社会福祉協議会など16団体へ贈呈しました。「コロナの影響もあり、生活相談が増えている中、手軽に食べられる食品の寄付はとてありがたい」との声が寄せられました。

「子どもの居場所ネットワークいわて」加盟団体に店舗での購入代金を2割引きにする「子ども食堂割引支援」は、2021年度9団体(対象2,734人)が利用し、58万円を助成しました。

また、子ども食堂割引支援の財源となる「ささえあい募金」は、店舗・宅配で177万円が寄せられました。



「フードドライブ」への参加が広がっています。

コープフードバンク 10団体に7.1トンの食品提供

東北の生協が運営する「コープフードバンク」では、お取引企業から余剰食品などの無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。

2021年度は新たに滝沢市社会福祉協議会、陸前高田市社会福祉協議会と協定を締結。10団体に46回7.1トン(前年+2トン)の食品等を提供しました。活動を支えるサポーターは個人290人(前年-38人)、法人6社となりました。

フードバンク協定締結団体(締結順)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ・宮古市社会福祉協議会 | ・一関市社会福祉協議会 |
| ・大船渡市社会福祉協議会 | ・奥州市社会福祉協議会 |
| ・特定非営利活動法人くらしのサポーターズ | ・特定非営利活動法人インクルいわて |
| ・岩手保護院 | ・二戸市社会福祉協議会 |
| ・花巻市社会福祉協議会 | ・めくまる食堂実行委員会 |
| ・北上市社会福祉協議会 | ・滝沢市社会福祉協議会 |
| ・釜石市社会福祉協議会 | ・陸前高田市社会福祉協議会 |

法人会員(岩手県内)

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| ・(株)事務機商事 | ・丸庄クリーニング(株) | ・(株)モリレイ |
| ・白石食品工業(株) | ・(株)岩手給食 | ・銀河フーズ(株) |

県内の大学生支援に賛同・協力

コロナ下で学業や生活に困っている県内の大学生を支援する「学生食料支援プロジェクト実行委員会」の取り組みに賛同し、寄附金20万円をコープフードバンクからの食品提供で協力しました。

ユニセフ募金に協力 ウクライナ緊急募金は1千万円に

世界の子どもの命と健康を守るユニセフ募金に、日常的に取り組んでいます。ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、2022年3月からはウクライナ緊急募金に取り組み、店舗と宅配で協力を呼びかけました。4月20日現在1,235万円の募金が寄せられています。

さらに、2021年度は通年の募金活動(239万円)に加え、アフガニスタン政変やハイチ大地震を支援する「人道危機・自然災害緊急募金」(289万円)にも取り組みました。いわて生協のこれまでのユニセフ募金総額は、1億3,024万円となっています。



高齢者見守り活動 異変対応は9年間で142件に

いわて生協は県内の全市町村と協定を締結し、宅配(班・個人宅配)、夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を行っています。

2021年度の異変への対応事例は10件、9年間で142件となり、ご家族から感謝の声をいただいています。

子育て応援「はじめてばこ」 県内に生まれた赤ちゃんの半数に

岩手に生まれた赤ちゃんを祝福し、健やかな成長を願って、メモリアルボックス「はじめてばこ」を応募いただいた全家庭に贈る取り組みを2019年にスタート。いわて生協とめんこいテレビが主催し、岩手県など5団体の後援、29の企業・団体から協賛をいただいています。2021年度は2,609件のお申し込みとなり、開始から2年半で岩手県内に生まれた赤ちゃんの半数にお届けしました。



令和3年度消費者支援功労者表彰 「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞

消費者庁が消費者利益の擁護・増進のために活躍する個人・団体を表彰する「消費者支援功労者表彰」を受賞しました。被災地の買い物支援や環境活動、生活困窮者支援などの取り組みが評価されました。



自治体・関係団体の審議会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に岩手県や県内市町、関係団体の審議会や委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2021年度は「岩手県水産審議会」「岩手県食の安全安心委員会」「岩手県食育推進ネットワーク会議」など30の委員会に参加しました。

「いわて消防団応援の店」 4万6千人が利用

消防団員のみなさんの活動を支え、団員が増えるよう協力していこうと、「いわて消防団応援の店」に全店舗が登録しています。組合員に加入した上でレジで「消防団員カード」を提示すれば、5%分を割引くサービスを提供しています(1日・15日を除く)。2021年度はのべ4万6千人がこの制度を利用しました。



認定ステッカーを店頭に掲示しています。

障がい者のくらしや活動を応援

障がいをお持ちの方のお買い物をサポートしようと、宅配事業では個人宅配配達料が半額になる「障がい者サポート値引き」を実施(4,827人利用)。また、視覚障がいのある組合員の買い物支援として、カタログを読み上げたCDを43人にお届けしています。店舗では「サービスケアアテンダント」資格取得者(66人)が、お買い物をサポートしています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーター、「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。



無料お買い物バスで被災地のくらしをサポート。



沿岸の子どもたちにバスケットゴールを贈呈。

第2章

復興支援活動

「がんばろう！岩手 築こう未来」

変化する被災地の要望に寄り添い、東日本大震災被災地での支援活動を継続しました。また、今後の自然災害に備えようと防災・減災の取り組みを広げました。



毎日のくらしを支える買い物支援 11年間で75万人が利用

移動店舗と無料お買い物バス 6万5千人利用

移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。2021年度は2台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など43か所に運行しました。宮古市、山田町から店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2021年度は6万5千人（前年比82%）が利用しました。11年間で約75万人が利用し、買い物が不便な被災地のくらしを支えています。

宅配「復興支援サービス」などは 7千人が利用

宅配事業では、個人宅配手数料を減免する支援を継続しました。沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象の「復興支援サービス」と、2019年台風19号被災者が対象の「新・被災者サポート値引き」を実施。2021年度、2つの制度の登録人数は7,458人（前年比97%）となりました。

移動店舗「にこちゃん号」一関からの運行を終了

東日本大震災被災地の買い物支援として、移動店舗「にこちゃん号」はベルフ西町（宮古市）とコープ一関コルザ（一関市）から4台を運行してきました。運行開始から9年、復興が進み利用が減少したことから、車両を2台に減らし、一関発の運行を終了しました。

一関発の「にこちゃん号」運行の最終日。出発前、そして販売場所でも「今までありがとうね」「明るい対応にいつも元気をもらっていたよ」と、組合員のみなさんからスタッフへたくさんの感謝の声が寄せられました。

一番古い「にこちゃん号」の走行距離は、42万キロ。地球10周分走りました。引き続き2台がマリノコープドラ（宮古市）から沿岸5市町への運行を継続し、地域のくらしを支えます。



沿岸5施設にバスケットゴールを寄贈

いわて生協は2021年度から、岩手ビッグブルズの「バスケットゴール贈呈プロジェクト」に協賛し、沿岸の幼稚園・保育園にバスケットゴールとボールを寄贈しています。2022年度は山田町、大槌町、大船渡市、釜石市、久慈市の5施設に寄贈し、ビッグブルズの選手と子どもたちがミニゲームなどで交流しました。



ビッグブルズ選手と子どもたちが交流しました。

被災地支援活動助成金 6年間で1,569万円を助成

東日本大震災被災地で支援活動に取り組む団体を支援する助成金制度を2016年度に設立しました。2021年度は対象を「沿岸12市町村での活動、内陸で被災者を支援する活動」に拡大し、15団体に397万円を助成しました。これまでの6年間で助成総額は1,569万円にのびます。



被災地支援活動助成金 2022年度贈呈団体

- 【宮古市】子どもたちに映画お届け隊、欽ケ崎元気市の会
- 【山田町】やまだ子ども支援団体なないろ、北浜老人クラブ
- 【大槌町】花道プロジェクト、おおつちおばちゃんくらぶ
- 【大船渡市】NPO法人おはなほこりん
- 【陸前高田市】（一社）三陸アーカイブ減災センター、NPO法人きらりんぎっず、NPO法人まあむたかた、つむぐ、NPO法人高田松原を守る会、（一社）陸前高田被災地語り部くごこ屋、陸前高田こども図書館ちいさいおうち
- 【沿岸各地】もっちゃん森の仲間たち

「災害時における応急生活物資の調達に関する協定」大槌町と締結

大槌町と「災害時における応急生活物資の調達に関する協定」を締結しました。この協定は、一関市、奥州市、花巻市、滝沢市とも結んでおり、大槌町との締結で5市町となります。また、いわて生協が加盟する「岩手県生活協同組合連合会」は、岩手県と同様の協定を締結しています。

2019年の台風19号など、災害発生時に行政から食料などの支援物資要請を受け、対応しています。



東日本大震災を忘れない 学習会を開催

今後の自然災害に備えようと、学習会を開催。「東日本大震災を忘れない、防災・減災学習会」には77人が、「東日本大震災から学ぶ防災」には53人が参加しました。

復興支援活動基金 全国7生協から474万円

東日本大震災被災地での支援活動は、2020年度までに組合員や全国の生協から寄せられた「復興支援活動基金」をもとに取り組んでいます。2021年度は全国7生協から474万円が寄せられました。

支援活動に1,850万円を使用し、基金残高は7,207万円となりました。



おいしさで便利さで人気の「アイコープ産直若鶏肉だんご」。



生協ならではの商品のよさと利用を広げています。

第3章

食の取り組み

岩手の豊かな農林水産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員と一しょに取り組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国・東北の生協と協力して取り組んでいます。



アイコープ商品・アイスタイル商品

地産地消をめざすオリジナルブランド商品

アイコープ・アイスタイル商品は、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランド商品です。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発した商品です。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んでいます。

2021年度「アイコープ商品」「アイスタイル商品」の実績

- アイコープ商品・アイスタイル商品数 **142品目**
- 2021年度供給高 **10億1,050万円** (前年-6,475万円、94.0%)
- 製造委託メーカー **53社**

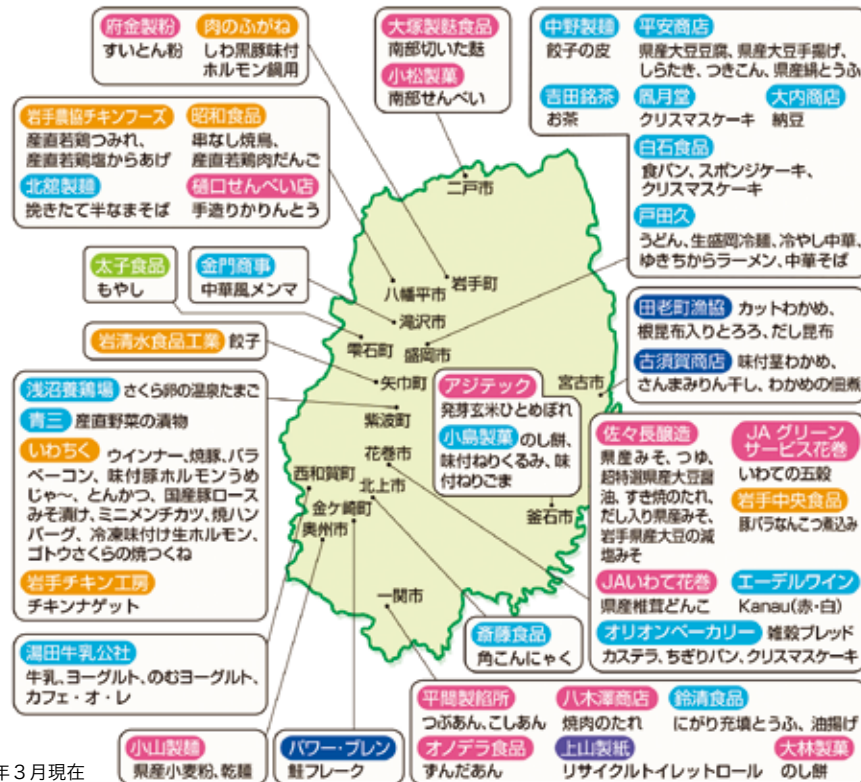
開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。



2022年3月現在

アイコープ商品12品目を開発・改善

2021年度は、アイコープ商品2品目を開発し、10品目を改善しました。開発・改善には組合員が参加し、よりよい商品にしようと意見を出し合いました。

組合員の要望にこたえて開発

アイコープ県産なめらか絹とうふ

「県産大豆の味わいはそのままに、使い勝手のいい充填とうふがほしい」という組合員の要望にこたえて開発しました。製造は平安商店(盛岡市)。



賞味期限を延長

アイコープカステラ

アイコープ味付ねりくるみ・ねりごま

アイコープ生乳で作ったヨーグルト(プレーン)

品質保持検査の結果、品質保持が確認されたことから賞味期限を延長しました。これにより食品ロスの低減につながります。

商品のよさと利用を広げる組合員の活動

コロナ下でもできる活動として、新たに「商品モニター」の取り組みをスタートし、1,166人が参加しました。「生協ならではの」商品を生協で家族といっしょに試すことで、商品を知り、利用のきっかけになりました。また、子育てに役立つ生協商品を紹介する学習会も開催し、16回65人が参加しました。

こ〜ぶ委員会では商品について学習し、そのよさと利用を伝える「はなまる商品」の活動に取り組んでいます。2021年度は、アイコープ商品や産直品を中心に学習し、委員会で学んだことやレシピを資料にして配布しました。



子育て中の組合員に、便利な生協商品を紹介しました。

地域の特産品利用を広げる取り組み

岩手の豊富な農林水産物や商品の利用を広げようと、行政や生産者団体などの協力をいただき、県内の特産品をご案内しています。

2021年度は「にしわが山の市場」(ベルフ牧野林で2回)を開催しました。また、コロナ禍で影響を受けている地元メーカーを応援しようと、宮古商工会議所との共同企画「三陸宮古魚介づくし」を宅配で1回開催しました。



毎回好評の「にしわが山の市場」。

安全な商品をお届けするために工場点検、商品検査の取り組み

組合員のみなさんに安全な商品をお届けするために、全国の生協や東北の生協と協力して品質管理や安全チェックの取り組みをすすめています。

2021年度、いわて生協では、アイコープ商品製造委託メーカーの工場点検を54工場で行いました。品質管理室では、店舗や宅配で取り扱っている商品が独自の基準に適合しているかを確認するため、商品微生物検査(3,125件)を行いました。

また商品事故を防止するため、全国の生協で商品についての組合員からのお申し出情報を共有し、事故の予兆を見逃さない仕組みを作り管理しています。





産直生産者「盛岡甘熟会」のみなさん（盛岡市）



産直米生産者と稲刈り体験で交流。

顔とくらしの見える「産直」

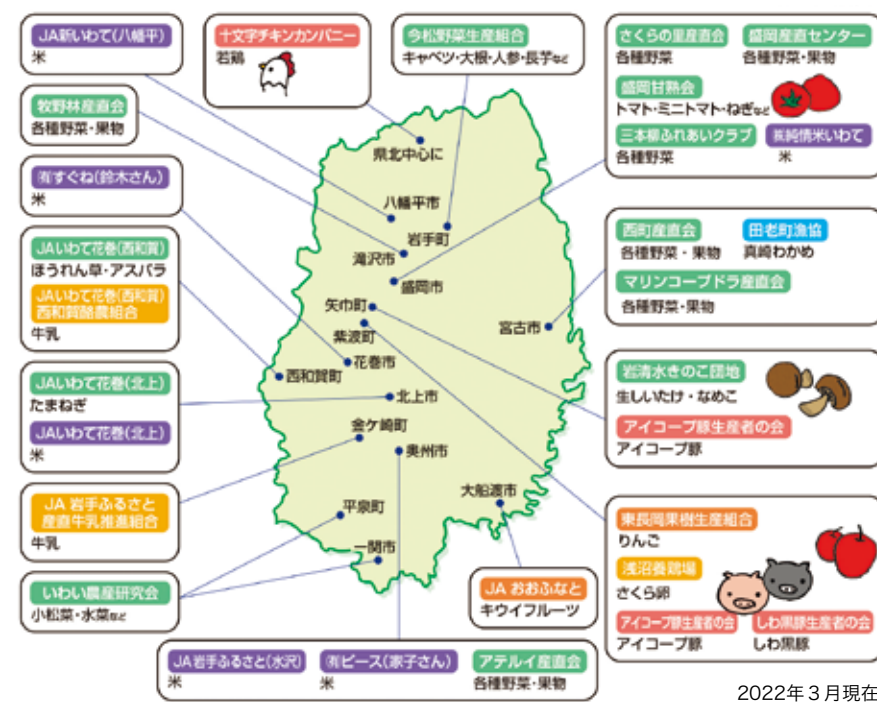
組合員と生産者が交流し、日本の農林漁業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農林水産物を求める組合員と、農林漁業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農水畜産物を作りながら、日本の食糧と農林漁業を守っていく運動です。

2021年度「産直」の実績

- 供給高
25億3,905万円（前年-2,831万円、98.8%）
- 産直提携団体
28団体
- 農産産直コーナー設置店舗
9店舗

県内28産地と産直提携



子育て層の産地見学・交流に力を入れています。

いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
- ②岩手の農林畜水産業を守り、その発展に貢献します。
- ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
- ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
- ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
- ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。

産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬／使用禁止する11農薬
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／排除に向けて計画的に努力する6農薬
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

「産直収穫祭」 店舗・宅配で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗と宅配で毎年開催。生産者と組合員、職員がいっしょにおすすめ活動に取り組んでいます。

2021年度は、セールチラシや広報誌「HELLO コープ」に産地紹介やレシピを掲載し、売り場とも連動。収穫祭での利用を広げました。また、さくら卵、アイコー豚、若鶏は「産直 BOX プレゼントキャンペーン」にも取り組み、好評でした。



コープ高松では「さくらの里産直会」の直売会を組合員が開催しました。

組合員が栽培方法などを点検する 「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2021年度も参加人数を制限して実施しました。26産地に組合員54人（前年比86%）が参加し、生産者の努力への理解が広がりました。

「業務確認会」は、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する取り組みとして2004年度から実施。店舗など7事業所を組合員と生産者43人が確認しました。



岩手の食と農、くらしを守る運動

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。2021年度は「いわて食・農ネット」といっしょに、食料自給率向上や自由貿易協定について自治体・農協への要請行動を行いました。

組合員と生産者の交流活動を継続

産直生協牛乳生産者へタオルを贈呈

産直牛乳の産地を組合員家族がたずねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」では、産直牛乳の生産者へ感謝と応援を伝えようと、搾乳用のタオルを組合員から生産者へ贈っています。2021年度は組合員の代表が公開安全確認会で産地を訪れ、タオルを贈呈しました。



「タオルは毎日使うのでありがたい」と生産者。

産直学習会

組合員が産地や工場をたずね、生産者やメーカー担当者から直接話を伺う産地・工場見学は、コロナ下で実施できませんでしたが、地域での商品学習会を6企画開催し、68人が参加。うち3企画はオンラインで開催し、コロナ下でも工夫して生産者との交流・学習に取り組めました。



「今野菜生産組合」の生産者を招いて学習会を開催しました。

産直牛乳 後継者育成資金 189万円に

酪農の発展に欠かせない後継者の育成を支援しようと、いわて生協では原乳200mlあたり20銭を「後継者育成基金」として、生協牛乳・乳製品の売り上げから生産者に還元しています。

2021年度の基金は189万円となり、西和賀酪農組合と岩手ふるさと産直牛乳推進組合へ贈呈しました。





気軽に立ち寄ることができる「コープサロン」。



多彩なイベントで子育てを応援「ハピママレッスン」。

第4章

組合員の活動

「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。



くらしや平和を守る運動を推進

アルプス処理水海洋放出に反対する署名3万2千筆

福島第一原発の放射性汚染水を浄化装置で処理した「アルプス処理水」について、政府は海洋に放出することを決め、2023年春からの開始に向けて準備をすすめています。これに対し、風評被害を生む海洋放出を行わず、関係者・国民の理解を得られる別の方法で処分することを求める「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」に、みやぎ生協・コープふくしまなど全国の生協・諸団体と一っしょに取り組みました。

いわて生協では3万2千筆、全国では17万9千筆の署名が寄せられ、東京電力と経済産業省に提出しました。



「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」は全国で17万9千筆が集まりました。

福祉灯油 県内全市町村で実施

灯油価格高騰の中、県内全市町村での福祉灯油の実施を求めて、岩手県生協連など一っしょに岩手県議会へ請願を行いました。請願は採択され、例年の5倍の2億5千万円の助成が決定。県内全市町村で福祉灯油が実施されました。



岩手県議会に福祉灯油の実施を求める請願を行いました。

平和運動 平和の大切さを学ぶ

いわて生協では「くらしの基本は平和があってこそ」との思いから、平和運動に取り組んでいます。2021年度は、平和の大切さを学ぶ「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ（オンライン）」に40人が参加。また、「平和のつどい」を高松の池にある平和祈念像前で開催し、31人が参加しました。



毎年8月9日に開催する「平和のつどい」。

くらしの願いにそった活動を多彩に

子育て応援活動「ハピママコープ」に1,600人参加

子育て層（特に乳幼児を持つママ）の願いにそった活動「ハピママコープ」は、子育て層が生協や商品を知る機会となっています。

2021年度は子育てママ対象のイベント「ハピママレッスン」を、15会場に拡大。盛岡・滝沢・花巻・北上・奥州・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸・久慈・矢巾町で213企画を開催し、745組1,582人（前年比140%）が参加しました。昨年からの実施のオンライン企画（26企画）も継続し、コロナ禍のためオンライン企画に切り替えて開催した事例もありました。「親子で楽しい時間を過ごすことができた」と好評でした。



親子一っしょに参加できるイベントが好評です。

シニア向け企画を多彩に開催

シニア世代の願いにそった活動「大人企画」の開催が広がりました。盛岡・滝沢・八幡平・奥州・北上・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸市の17会場で181回開催し、1,427人（前年比161%）が参加。体操や手芸など多彩なテーマで行っています。



「大人企画」の開催がさらに広がっています。

1万8千人の組合員参加で運営

コロナ下でも、多くの組合員の参加で生協を運営しようと取り組みました。2021年度は、WEBや書面で参加できる取り組みをさらに広げ、のべ1万7,985人が参加。運営や計画づくりに多くの組合員の意見・要望をいかすことができました。

安心して暮らせる地域をめざして 福祉活動

コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年に発足。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。2021年度は15市町11支部に会員1,379人（前年比103%）、活動時間2万4,261時間（前年比103%）と、活動時間が回復しました。



コープサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「コープサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。

「コープサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場として、盛岡・滝沢・八幡平・宮古・釜石・大槌・大船渡・花巻・北上・奥州・一関市の15会場で108回開催。850人（前年比114%）が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共催するミニデイサービスです。2021年度は盛岡地域10会場で開催しました。



運営参加の場	参加人数(前年比)	
組合員の集まり	ためしてコープ	8,891人(157%)
	秋のコープのつどい・おうち開催	7,476人(-)
計画づくり	コープ懇談会	1,048人(113%)
	コープ総代会	570人(132%)
計	17,985人(256%)	



無料買い物バスを盛岡地域で運行しています。



宅配（班・個人宅配）の利用者は7万9千人に広がっています。

第5章

くらしを支える事業

店舗事業

くらしに役立つ「地域一番のお店」に

組合員みなさんに満足いただける売り場をめざして取り組んでいます。「今日のおすすめ品」がわかる売り場づくりや、「家計応援5%引きの日」の強化をすすめました。

コープ花巻あうる、ベルフ西町の食品売り場の品ぞろえを改善しました。「新しい売り場で買い物がしやすい」と好評です。



高齢者へのお買い物支援9万人が利用

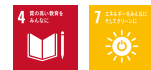
無料買い物バス

盛岡地域5店舗への無料バス、宮古市・山田町から宮古店舗への無料買い物バス、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスの運行を継続しました。地域のスーパーの閉店でシャトルバスの利用が増え、お買い物バス利用者数はのべ5万9千人（前年比111%）となりました。

お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」は、年間2万9千人（前年比107%）が利用しました。

ふだんのくらしにいっそう役立つ事業、生涯をとおして組合員のくらしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。



キャッシュレス決済 利便性をさらに向上

クレジット機能付組合員カード「アイコープ・トリプルカード」を導入しました。また、組合員の要望を受けて、電子マネー付組合員カード「アイコープ・カード」のチャージを、スピードレジの会計機でできるように改善しました。店舗でのキャッシュレス決済率は、40.8%（前年+0.8%）でした。



組合員の声 1万8千件を仕事改善に

お店の売場などで組合員から寄せられた、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2021年度は1万8,693件の声が寄せられました。

区分	2021年度	2020年度	増減
意見・要望	7,067	8,739	-1,672
お問い合わせ	6,871	6,974	-103
おほめ・感謝の声	1,994	2,394	-400
商品・運営への苦情	910	1,187	-277
その他	1,851	2,381	-530
合計	18,693	21,675	-2,982

宅配事業

毎週の利用者は7万9千人に増加

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする宅配（班・個人宅配）は、コロナ下で宅配需要が高まり、利用者は7万8,673人（前年比101%）、県内世帯の14.9%（前年+0.3%）の利用に広がりました。

「献立や注文を考えるのが大変」という組合員の声にこたえ、コープ東北でAI（人工知能）を活用した新たなWEB注文サービスを開始しました。レシピを選ぶと必要な材料も一緒に注文できる「coop chef」、過去の利用状況からAIがおすすめ商品を選ぶ「クイック注文」をスタートし、好評です。

夕食宅配サービスは20市町村で 1日3,200食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」（2013年事業開始）は、「人気メニューウイーク」などの取り組みで食数を増やし、20市町村で1日3,237食（前年比111%）の利用に広がりました。



夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・滝沢市
- ・八幡平市
- ・雫石町
- ・矢巾町
- ・紫波町
- ・花巻市
- ・北上市
- ・奥州市
- ・平泉町
- ・一関市
- ・二戸市
- ・一戸町
- ・久慈市
- ・宮古市
- ・山田町
- ・金石市
- ・大槌町
- ・大船渡市
- ・野田村

エネルギー事業

生協灯油は総額2,200万円を還元

2021年度は、原油価格の高騰が続く中、県内の灯油価格を適正化しリードする役割を果たしました。1～2月度の配達灯油について1L1円、冬季1,000L以上の利用で1L1円、総額2,200万円の還元を実現し、きびしさを増す組合員の家計に貢献しました。

価格高騰の影響で、節約や灯油以外のエネルギーへの切り替えがすすみ、配達量は2万8,938KL（前年比92.5%）と減少しました。

個人宅配配達料を1年間無料 子育て応援「はじめてCLUB」

2020年度より、子育て応援「はじめてCLUB」の新たな特典として、個人宅配配達手数料を1年間無料になるサービスを実施しています。2021年度は1,999人が登録し、会員は4,517人になりました。

個人宅配サポート制度で高齢者や 子育て層のお買い物を応援

個人宅配では、高齢の方や障がいをお持ちの方、子育て中の方などを対象に、配達手数料を優遇する「サポート値引き」制度を設けています。2021年度は3万2,773人（前年比103%）が登録、個人宅配利用者の59%が制度を利用しています。

個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き お一人が70歳以上の夫婦世帯、 全員が70歳以上の世帯	12,709人	23%
復興支援サービス 新・被災者サポート値引き	7,458人	13%
子育てサポート値引き 母子手帳発行から満6歳までの お子さんがいる方	4,705人	8%
障がい者サポート値引き ご本人またはご家族が 障がい者手帳をお持ちの世帯	4,827人	9%
介護者サポート値引き ご本人またはご家族が介護認定を 受けている世帯	3,073人	6%
合計	32,773人	59%



配達灯油の登録人数は4万人にのびます。



店舗の独立型共済カウンターは「ゆっくり相談できる」と好評です。



セリオでは葬祭に関するあらゆることをサポートします。

エネルギー事業

住まいと暮らしのサービス事業 3万9千人が利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地域の専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。

2021年度は、店舗で「住まいの相談会」を17回開催し、快適な住まいづくりをサポートしました。提携施設で優待サービスを受けられる「組合員カード提示サービス」は利用が減少し、サービスの利用者はのべ3万9,786人（前年比95%）となりました。

保障事業

7千件の加入で契約件数11万件に

コープ共済は、全国の生協組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛金で充実の保障を実現した保障のコープ商品です。

2021年度、コープ共済の新規加入は7,045件となり、契約件数は11万3,509件となりました（前年比102%）。ベルフ山岸に7店目の独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境を広げました。

9億5千万円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いを大切に、請求漏れが発生しないように宅配・店舗を通じて加入者に声かけを行っています。2021年度の共済金のお支払いは、1万3,706件（前年比105%）、9億5,198万円（前年比95%）。1日あたり37件、260万円となり、「組合員のくらしを支える助け合い」の役割を果たしています。

コープのでんき「COCOENE」 契約件数は8,700件に

環境にやさしく、原発に依存しないくらしを広げようと、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業（2018年開始）に取り組んでいます。コープのでんき「COCOENE」は、再生可能エネルギー比率100%（2021年度計画値）の「ソフトでんき」、電気料金と再生可能エネルギー比率の両方に配慮した「コスパでんき」の2種類から選べます。

2021年度の契約件数は8,704件（前年+2,045件）と、計画を上回って広がりました。

ランドセルカバー7,300枚を 新入学児へ贈呈

子どもたちの交通事故を減らそうと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を、2015年度から行っています。2021年度は県内小学校の8割にあたる228校の新入学児童へ、7,298枚を贈呈しました。

シニア世代向け「健康づくり教室」開催

コープ共済連の協賛を受けて、カリッジスポーツ講師によるシニア世代向けの運動教室「健康づくり教室」を開催しています。3か月6回コースで、運動習慣の定着により健康寿命を延ばすことをめざしています。

2021年度は12会場で開催し、135人が参加。「説明がわかりやすく楽しかった」との声が寄せられました。



葬祭事業

12ホールで1,468件を施行

いわて生協の葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2021年度は、盛岡市西青山に会館を新設。県内12のセリオホール（葬祭会館）で、1,468件（前年比107%）の葬儀を施行しました。コロナ下でも「故人にふさわしいお見送り」ができるよう、広い会場をご用意するなどいねいな提案を行いました。利用者からは「コロナ下で心配でしたが、きちんと見送ることができた」と感謝の声が寄せられました。

福祉事業

小規模多機能型居宅介護事業 のべ299人が利用

介護事業への要望の高まりを受けて、2018年度から、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護事業」を行っています。2021年度、小規模多機能型居宅介護「あい長橋町」には、52件の相談が寄せられ、のべ299人が利用しました。



「あい長橋町」ではお出かけや季節の行事を大切にしています。

「セリオ積立」1万4千件に

いつか訪れる「もしもの時」に備えて、計画的に積立を行う「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。2021年度は、新たに1,045件の申し込みをいただき、総件数は1万4,373件（前年比105%）になりました。



コープ介護・福祉センター「あい」 サービス提供人数は6千人に

コープ介護・福祉センター「あい」が行う在宅介護3事業の2021年度の利用人数は、居宅介護支援2,090人（前年比93%）、訪問介護1,323人（前年比86%）、福祉用具レンタル2,464人（前年比103%）となりました。また、ベルフ牧野林で介護用品展示会を開催し、「いつものお店で介護用品を見られるのはいい」と好評でした。



ベルフ牧野林での展示会は好評でした。

南昌荘 入園者が1万4千人に回復

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、維持管理と公開を行っています。建物は盛岡市の景観重要建造物に、庭園は盛岡市の保護庭園・国の登録記念物に指定されています。

2021年度は、コロナ下で落ちこんだ入園者数を回復しようと広報活動や自主企画の充実に取り組み、年間の入園者数は1万3,813人（前年比134%）に回復しました。



多様な人々がともに働き続けられる職場づくり

祝祭日の一時保育 20日間実施

祝祭日など、園や小学校が休みの時に「子どもを預けられるところがない」という職員の声から、生協施設での一時保育を2019年から実施しています。対象は常勤者のお子さん。2021年度は5会場で20日間実施し、のべ95人が利用しました。



男性の育児休業の取得を推進

男性にも子育てに積極的に関わってほしいと、男性職員の育児休業取得をすすめました。互助会による男性の育児休業中の給与補償制度を整備し、2020年度は対象者の33%、2021年度は21%が取得しました。女性職員は対象者10人全員が取得しました(取得率100%)。

育児休業を取得した男性職員

「2回目の育児休業。今回は妻の手術・入院もあり大変でしたが、子どもとの時間が取れ、成長を実感することもできました。育児休業に理解・協力してくれた職場のメンバーに感謝です」(店舗常勤者)



障がいを持った人々も ともに働く

いわて生協では、2014年から岩手県の「特別支援学校就労サポート制度」に登録し、支援学校生の職場実習・体験の受け入れを積極的に行っています。また、盛岡地区「特別支援学校と企業との連携協議会」にも参加し、取り組みへの協力を行っています。障がい者の方の雇用も積極的に行っており、2021年度末時点で50人が生協店舗や宅配センターで働いており、法定雇用率は2.7%。定期面談や個別面談、アンケートなどを行い、生協で長く働き続けられるよう取り組んでいます。

